

国立国語研究所共同研究プロジェクト2025年度第1回
「危機言語の保存と日琉諸語のプロソディー」合同研究発表会

静岡・井川方言による 昔語りの記録・保存・継承

谷ロジョイ（静岡理工科大学）

はじめに

【井川について】

- (1) 静岡県北部に位置する
- (2) 人口8,000人（1950年代のダム建設時）をピークに減少が続き、現在は300人弱
- (3) ダム工事までは交通路が整備されていなかった
- (4) 高齢化率70%以上
- (5) 小学生4名、中学生0名

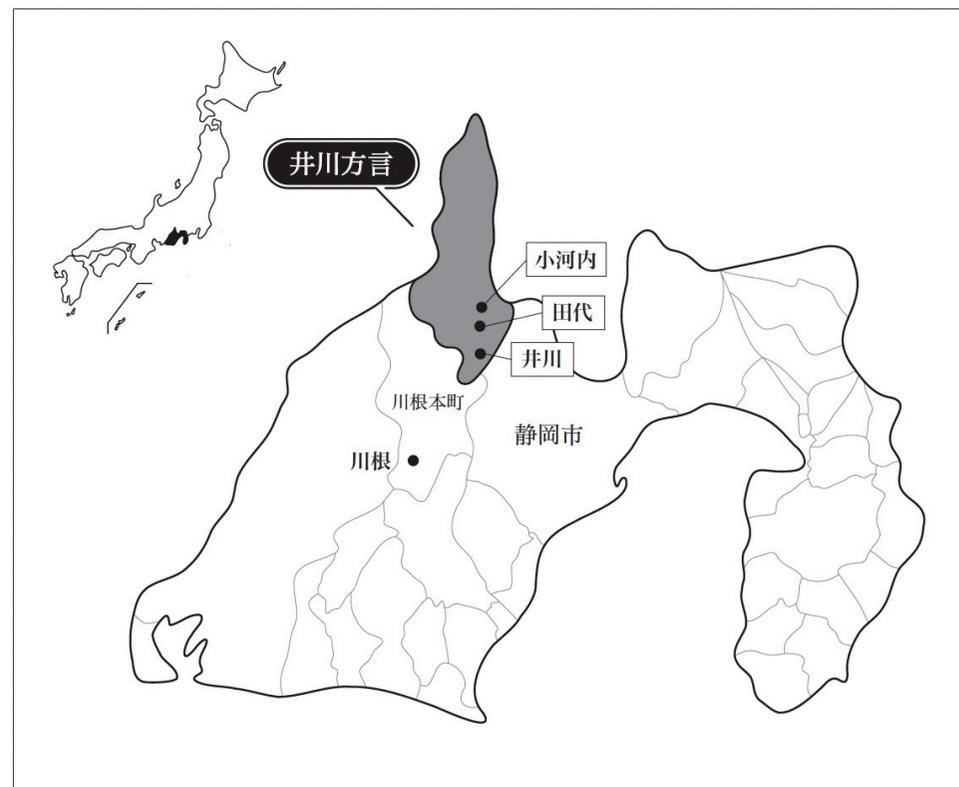


図1：井川の位置（『井川方言基礎語彙集』より）

はじめに

【自然談話について】（下地，2024）

- ・ 資料的価値
- ・ 自然談話を用いた研究

→ 明示的調査は重要。ただし、

(1) 不自然な表現を引き出してしまいう可能性がある

(2) 未知の言語学的知見については調査が難しい/面接調査で確認できない形式がある

(3) 侵襲性が高い

下地理則（2024）『シマクトウバ継承で研究者がなすべきこと [シンポジウム講演録]』 <https://note.com/lingfieldwork/n/n2dbca1976bdd>

明示的調査と自然談話による調査

事例：発表者がかつて実施した言語調査（谷口，2021）

(1) 個人面接調査

- ① 静止画の描写および短文読み上げによる音韻調査
（アクセント・語頭のパ行音）
- ② 静止画の描写による語彙調査
- ③ 共通語から井川方言への言い換えタスクによる語法・表現調査

複数の問題がある

(2) 自然談話を用いた調査

谷ロジョイ（2021）「静岡県井川方言に見られる言語変異・変化」『日本方言研究会研究発表会発表原稿集』第113巻，日本方言研究会。

調査の侵襲性

宮本常一・安溪遊地（2008）『調査されるという迷惑 —フィールドに出る前に読んでおく本』みすのわ出版。

アクセント調査→ かつて受けた母方言への**否定的評価**を想起させる

馬瀬（1981）：「国語の授業で教科書を朗読するたびにアクセントについて注意された。他のことと違いこれだけはどうにもならなかった。私はだんだん無口になった（p.14）」

「静岡の高校で井川出身の生徒が初めて卒業式で答辞をした。しかし、途中からアクセントがおかしいと言って生徒がスクス笑い出してしまい、厳粛な雰囲気は壊れ、こんな悲しい思いをしたことはなかった（p.14）」

馬瀬良雄（1981）．言語形成に及ぼすテレビおよび都市の言語の影響 国語学 125, 1-19.

調査の侵襲性

キホ：

私は分からない。でも、子どもたちは分かる。テレビの影響だか、ラジオの影響か知らん。あと、私たちのときは、戦争が終わるとき、大事な、子ども時代をずっと、その小学校1年生のとき敗戦になったんだけど、だから、ラジオもないから、なんにもないから、井川の人だけで働ってるから、あの一、生活してたから、発音っていうことは全く分からないから、**高校へ行くと、話をすると、わあって笑うの。**なんで笑われるのか分からないと、その中には、あの、誠実な子もいて、あんたたちは笑うのはどういうことだね、井川から来ただから、分かんないだから、親切にあげて、教えてあげればいいでしょうって、意見を言ってくれる子もいるけど、教えてくれても分からない。

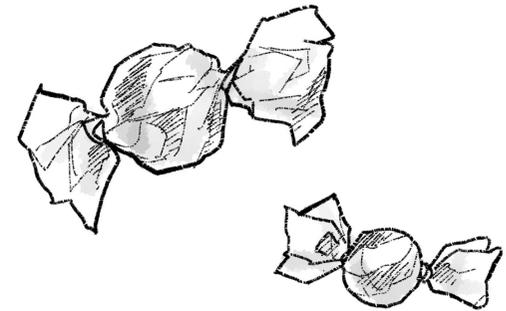
動画挿入

調査手法の問題点

アクセント調査→短文の読み上げ

「雨が好きだ」「飴が好きだ」

調査項目には、**井川方言では使用されない同音異義語**
(雨・飴, 熱い・厚いなど)が多く含まれていた(谷
口, 2024)



- ・日：オテントサン
- ・飴：アメンダマ
- ・熱い：アチイ
- ・厚い：アツッカ

谷口ジョイ (2024) . 福祉言語学の再構想 社会言語
学, 24, 1-10.



調査手法の問題点

キホ：

どれも分からないですね。アメって言わないんだよね。アメンダマって言うから。アメンダマ好きだ、アメが好きだってなかなか。こういう間違いはないわね。アメ、なめるアメを、アメだけでは、二字では誰も…

あついは上等の句で、あちいになって。あちいっちゅうやつは、あの、あつい（熱い）ほうの、火のほうのあつい。あつっかのほうの、あつっかちゅうかな。ものがあつい（厚い）のはあつっか。

→ 共通語こそが唯一の規範的な言語であるという価値観の押し付け（札埜，2017）

札埜和男（2017）『法廷における方言』和泉書院。

動画挿入

本発表で扱うデータ

方言学者である故・山口幸洋氏が生前収集した音声資料（約2,000点）のうち井川方言の音声データ

→ 1950年代～80年代に録音された自然談話資料

→ 約70時間分

→ 研究に使用できないものも多数（音質/メタデータ/研究倫理）

自然談話から見る井川方言の音韻的特徴

先行研究

- (1) 中部地方で唯一の**無アクセント地域**
- (2) **末尾卓立調**のイントネーション

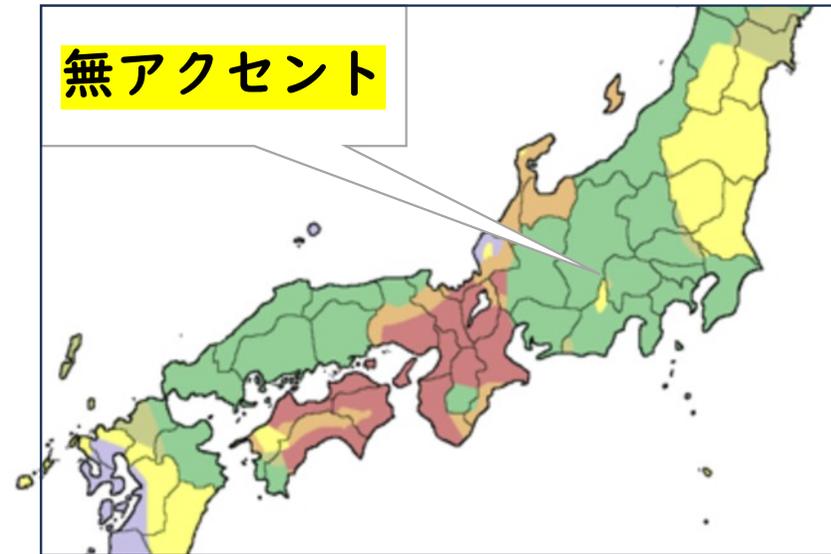


図2：アクセント地図

秋永一枝(1986)「アクセント概説：史的变化と方言分布」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学Ⅰ方言概説』国書刊行会.

自然談話から見る井川方言の音韻的特徴

先行研究

中條 (1982a; 1982b)

- ・語のアクセントが一定ではない → 自然談話から検証可能
- ・アクセントによって語の意味を弁別しない

→ 当時の青少年層 (1960年代半ば以降に出生した人) は、アクセントの型を区別する「型知覚」を有しているおり、同音異義語の区別が可能である

→ 中條はこれをテレビ、および小中学校教員の使用する静岡県中部方言の影響であろうと考察している

中條修 (1982a) 『静岡方言の研究』吉見書店。

中條修 (1982b) 「無アクセント地域における青少年層のアクセントの動向—静岡市井川方言の場合」『静岡大学教育学部研究報告人文・社会科学篇』静岡大学教育学部編, 1-15.

自然談話から見る井川方言の特徴

先行研究

中條 (1982b, p.43)

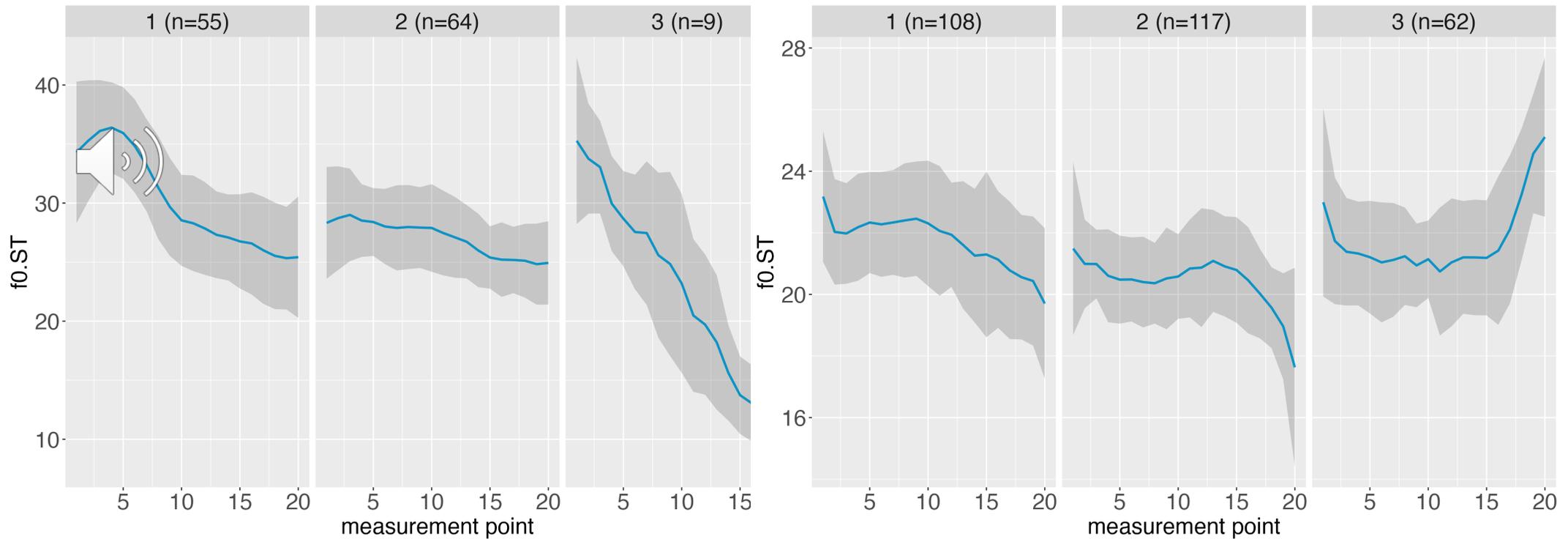
「これらの無アクセント地域では、概して尻上がり風の一本調子のイントネーションによる発話が耳立つ」

- ・山口 (1997) : 文のイントネーションが次第に上がる「末尾卓立調 (p, 237)」が周辺地域から「**ギラ**」と呼ばれる

山口幸洋 (1997) 旧井川村のアクセント 「昔話」による典型一型アクセントの記録, 『人文論集〈静岡大学人文学部社会学科・言語文化学科研究報告〉』 231-285.

自然談話から見る井川方言の特徴

友次 (2025) :



自然談話から見る井川方言の語彙

先行研究

促音+濁音の組み合わせで表される有声阻害重子音が見られる（宮本，1975）

例：

三度：さっど

閑蔵（地名）：かっぞー

雨が止んだ：やっだ /yam-ta/ → yodda

死んだ：死っだ /sin-ta/ → sidda



少数の語に限定されるのか、生産的なのか？

宮本勉（1975）『史料編年井川村史第二巻』名著出版。

自然談話から見る井川方言の音韻的特徴

[自然談話]



- 安竹岩太郎（1889年生まれ）
- 安竹かよ（1887年生まれ）

出現する有声阻害重子音の例

今度は：コッダー

奥で：オクッデ 奥じゃ：オクツジャ

村で：ムラッデ

～ものだから：モンダッデ

知らないものだから：シランナッダデ

自然談話から見る井川方言の語彙・語法

語彙の明示的調査

「～は、井川方言でどのように言いますか」

→ 効率よく、多くの語彙の収集が可能

[井川方言]

共通語と類似した語の多い本土方言

共通語へのシフトが急速に進んでいる

(谷口, 2024)

→ 明示的調査の限界



2024年3月 国立国語研究所との合同調査にて

自然談話から見る井川方言の語彙・語法



てっぼーうち [teppo:utsi]

【名】狩人

地点 田代、井川

例文

備考 鉄砲撃ち

ででーぽぽ～ででぽっぽ
[dede:popo ~ dedepoppo]

【名】鳩、ミミズクなどの鳥

地点 小河内

例文

備考 フクロウはいない、ミミズクだけ。「で
でっぼー」とも言う

ででっぼー [dedeppo:]

【名】鳩

地点 小河内

例文

備考 「ででーぽぽ」「ででぽっぽ」とも言う

でんでんむし

[dendemmuɕi ~ dendemmuɕi]

【名】蝸牛(かたつむり)

地点 小河内

例文

備考 昔は「カサンドー」と言った

てんぷら [tempura]

【名】天麩羅

地点 井川

例文

とー [to:]

【名】十

地点 小河内

例文

自然談話から見る井川方言の語彙・語法

明示的調査で引き出しにくいもの

- (1) 既に共通語に置き換わっているもの → 談話資料から抽出
- (2) 共通語では表せない語

例：アタ（いたずら）/アタッコゾー（いたずら小僧）

友次（2025）：

しなずともって（死のうと思って）

きーてみずともっただ（聞いて見ようと思った）

おーかみにくわせずともって（狼に食わせようと思って）

ふじさんえ いかずって（富士山へ行こうって）

みずおさずけていかずって（水を授けて行こうって）

やすまず（休もう）

おれがひとつおどきゃえーてやらずって（脅かしてやろうって）



自然談話から見る井川方言の語彙・語法

明示的調査で引き出しにくいもの

(1) 既に共通語に置き換わっているもの

(2) **共通語では表せない語**

例：ユイカセ/ユイハライ

動画挿入

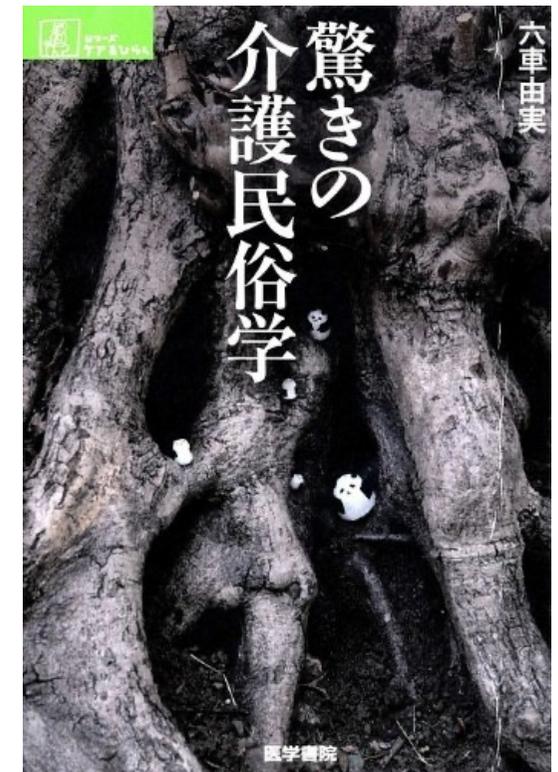
自然談話を用いた研究

六車（2012, p.20）：老いや病による絶望感、喪失感を抱えている（老人ホームの）利用者が、昔語りをして**いるその時には喜びを感じてくれている…**

民俗学の「聞き書き」

・傾聴や回想法（＝高齢者の昔語りを聞く療法）とは似て非なるもの

六車由実（2012）『驚きの介護民俗学』医学書院。



地域と連携した井川方言の継承

- ・「聞き書き」における高齢者は、「情報を提供する主体」であり、「**与える側**」

人が心身ともに健康である条件 (Aked et al., 2008)

- (1) つながる (Connect)
- (2) **与える (Give)** : 与える行為は, **自己価値や幸福感**といった肯定的な感情を生み出す。
- (3) 学び続ける (Keep Learning)
- (4) 注意を向ける (Take notice)
- (5) 活動的になる (Be active)

Aked J., Marks N., Cordon C., Thompson S. (2008). Five ways to wellbeing; communicating the evidence. New Economics Foundation. London.

地域と連携した井川方言の継承

高齢者の社会的孤立

=生活の質低下/心身の健康を損なう要因
(Fujiwara et al. 2022) .

【構図】

- ・「支援する側」「支援される側」
- ・「介護する側」「介護される側」
- ・「助ける側」「助けてもらう側」



Fujiwara, Y., Nonaka, K., Kuraoka, M., Murayama, Y., Murayama, S., Nemoto, Y., Tanaka, M., Matsunaga, H., Fujita, K., Murayama, H., & Kobayashi, E. (2022). Influence of “Face-to-Face Contact” and “Non-Face-to-Face Contact” on the Subsequent Decline in Self-Rated Health and Mental Health Status of Young, Middle-Aged, and Older Japanese Adults: A Two-Year Prospective Study. *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 19(4), Article 4.

井川昔話の継承

- 「ある方に『あなたは**言語に囚われ過ぎだ**』と指摘された。『生活自体を包括的に捉え、言語はあくまでそれに付随して後から付いてくるものだ**と捉えた方がいいのではないか**』と助言された」（ズラズリ, 2021）

→高齡者らと共に、井川方言の記録・保存・継承に取り組むことで、集落の高齡者が、人とのつながりの中で活躍できるようなコミュニティの実現を目指す



井川昔話の継承

【談話資料の活用(1)】

「井川昔語りの会」の開催：生活の知恵や工夫、生業、古くから伝わる民話を共有し、記録として残す活動を行なっている（オンライン・対面）

例：スズメとアカショウビン



<https://www.youtube.com/watch?v=ZkbGuZs1Tr8>



井川昔話の継承

【雀とアカショウビン（森竹鉄蔵）】

こんな話が昔あったってなあ。あるところに雀とアカショウビンが住んでいたって。

ある時、親が病気だもんだで、雀とアカショウビンが病気の親の出やあ（お見舞い）に行くって。雀は着たまま、そのまま飛んでいったって。そして、親の死目に会ったもんだで、餌の稼ぎがええって。

アカショウビンはあんまり衣装が悪いもんだで、衣装をこしりゃあてから行ったもんだで、その間に親が死んじゃって、出会うことができなやあもんだで、それで罰(ばち)が当たって、雨の降る時、仰向いて三粒しか水を飲むことができなやあだって。水を飲む時、真赤な体が水に映って、水を飲めなやあって。あんまりきれいすぎて。

親の出やあ（お見舞い）に行く時は、ぼろを着てても行くもんだって。親の出やあには速く行けって。そうゆう話だっけさ。

井川の方言学んで継承

無アクセント、「挟む」「走る」



静岡市葵区井川地区の方言の記録、保存、継承に取り組む静岡理工科大学社会学部社会学語学研究室は21日、一般向けの講座「井川昔語りの会」を同区の同大静岡駅前キャンパスで開いた。

静岡理工科大 研究室が講座

井川の方言の特徴などを紹介した講座＝静岡市葵区の静岡理工科大静岡駅前キャンパス

同研究室の谷口ジョイ教授は、井川の方言は言葉がアクセントで区別しない「無アクセント」で、東海・北陸地域でも珍しいと説明。は行で始まる動詞の「挟む」「走る」が、方言では「ばさむ」「ばしる」など最初音がば行になる特徴があることを紹介した。1980年以降に生まれた住民はほとんど井川の方言を使わず、理解できていないのが現状だとし、「言語は道具ではなく世界観。井川の文化、世界観を残すために記録、保存、継承が必要だ」と強調した。井川の住民らが地元で伝わる民話の読み聞かせをしたり、食文化を紹介したりもした。谷口教授は約1年前から井川の言葉や文化に関心を持つ有志による勉強会を開いている。一般向けの「昔語りの会」は2回目の開催で、県内外から約50人が参加した。(政治部・池谷通子)



井川

昔語りの会

井川の昔の物語を聞いてみませんか？

概要

井川は、南アルプスの麓（ふもと）にある美しい集落です。「井川昔語りの会」は、井川の民話やことば、文化などを後世に伝えていくことを目的として、オンラインで会話を聞いています。今秋、初年度を満了することになりました。どなたでもご参加いただけます。

目次

- ・後世に残したい井川のことば（谷口ジョイ）
- ・「井川の星ばなし」と文芸賞（河野和雄）
- ・豊かな井川の食べ物（金部みづみ）
- ・語り「カンス次のお話」（長谷川隆美）
- ・語り「四郎作手って」、「鶴子と娘」（鈴木暹）他
- ※プログラムは変更することがあります

日時 2025年6月21日（土）10：00～11：30

会場 静岡理工科大学静岡駅前キャンパス（M20）12階
（JR静岡駅北口より地下道で徒歩3分。松坂屋に隣接）

定員 40名

ご応募・お問い合わせはお気軽にどうぞ！

井川昔語りの会

申し込み <https://forms.gle/RGCvpg9VEioDbB7LA>

または 090-9027-4324（鈴木暹）まで



QRコードはこちら

地域と連携した井川方言の継承

【談話資料の活用(2)】

印刷物制作：談話資料から、若年世代が井川方言に親しめるような絵本や紙芝居を制作

「**辞書を作る会**」の立ち上げ：地域コミュニティが利用できるリソースとして、井川方言のオンライン辞書を整備する活動を行っており、**談話資料からの語彙の抽出**も行っている



謝辞

調査にご協力くださった井川の皆様に心より感謝申し上げます

本発表は、日本言語学会「言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト助成」、ユニバーサル財団研究助成、南アルプス学会研究助成、科学研究費基盤研究（B）

（24K00065）、科学研究費基盤研究（A）（24H00092）、アジア・アフリカ言語文化研究所「移民の継承語とエスニックアイデンティティに関する社会言語学的研究」

（jrp000267）、国立国語研究所「消滅危機言語の保存研究」の成果の一部である

